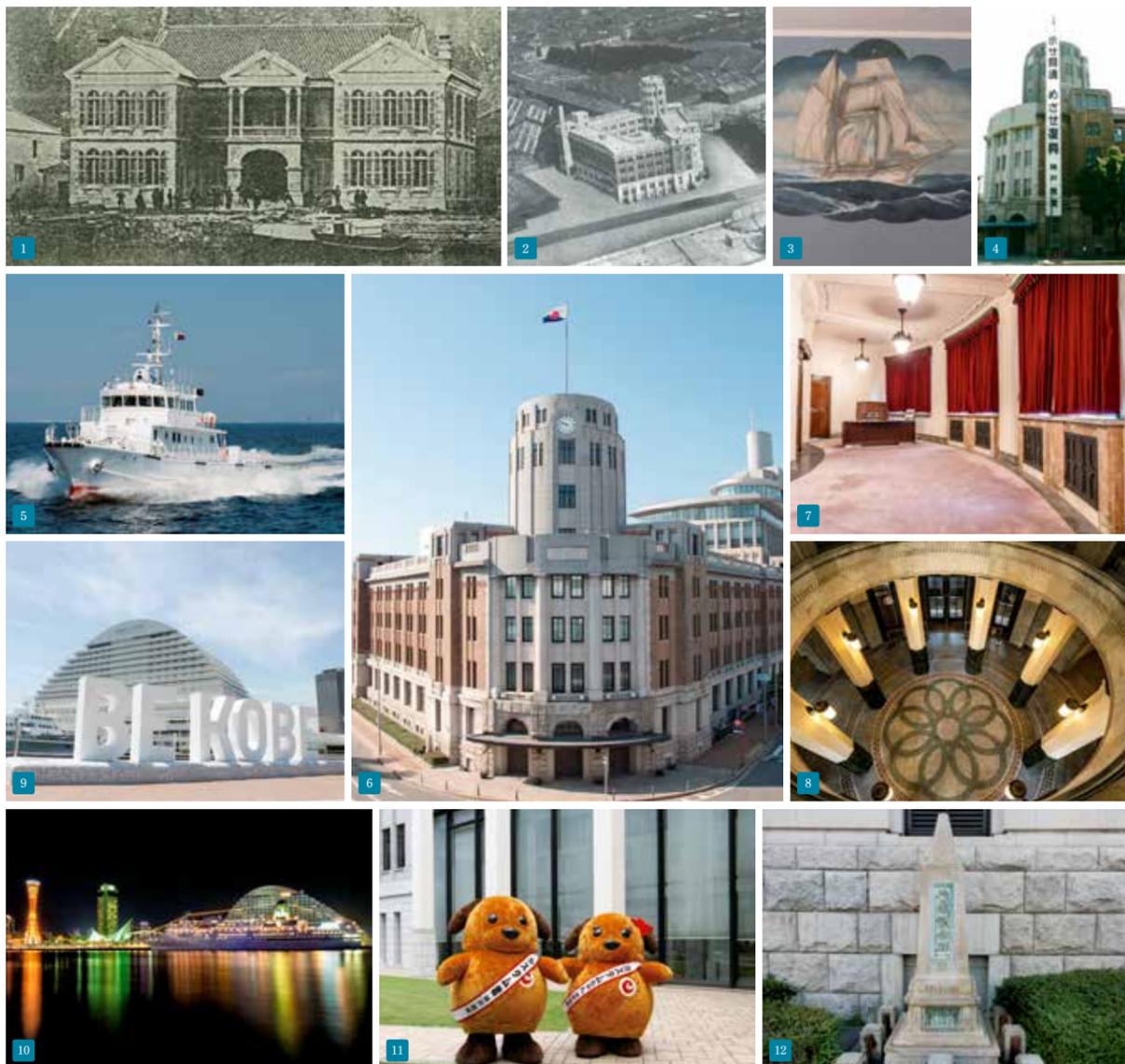


時計塔と共に、新たな時代へ

慶応3（1868）年の兵庫開港に伴い開設された「兵庫運上所」を前身とする神戸税関は、伊藤博文（後の初代内閣総理大臣）が第3代長官を務め、昭和4（1929）年には天皇陛下が行幸なされる（写真⑫）など、歴史と伝統がある機関の一つです。時計塔のある本関庁舎（写真②及び⑥）は、神戸空襲や阪神・淡路大震災（写真④）の苦難を乗り越えて、神戸港のシンボルとして市民から長く親しまれています。現在、9つの県、7,100kmにわたる海岸線及び28の開港を管轄し、31の官署で業務を行っています。なお、これらの数字は、いずれも全国の税関の中でも最大又は最長とされています。神戸税関管内における令和4（2022）年の輸出貿易額（確々報値）は13兆3,596億円（全国比13.6%）、輸入貿易額（同）は13兆5,776億円（全国比11.5%）です。



1 初代庁舎 2 2代目庁舎 3 占領軍が描いた壁画(旧館4階) 4 震災復旧工事 5 監視艇おき 6 3代目庁舎(現在) 7 元貴賓室(旧税関長室) 8 旧館エントランス(時計塔下) 9 神戸港(昼景)
10 神戸港(夜景) 11 カスタム君、カスタムちゃん 12 昭天皇行幸記念碑

神戸税関のあゆみ

幕末から明治にかけて

- ▶ 慶応3年12月7日（1868年1月1日）、兵庫（神戸）港が開港し、神戸税関の前身となる「兵庫運上所」が開設されました。
- ▶ 「兵庫運上所」は、慶応4年1月3日（1868年）に幕府軍が鳥羽伏見の戦いに敗れたため、わずか1か月余りで事実上の閉鎖状態となりましたが、慶応4年2月5日（1868年）に新政府によって改めて「神戸運上所」として開設されました。
- ▶ 明治5年11月28日（1872年）、「運上所」から「税関」に呼称を統一することが決定されました。
- ▶ 明治6（1873）年1月4日、「神戸運上所」は「神戸税関」と改称されました。
- ▶ 同年12月、初代本関庁舎が竣工しました。（写真①）

昭和の時代

- ▶ 昭和2（1927）年3月、二代目本関庁舎が竣工しました。（写真②、⑦、⑧）
- ▶ 昭和20（1945）年9月に占領軍により二代目本関庁舎が接収されましたが、昭和25（1950）年4月に接収が解除されました。（写真③）
- ▶ 昭和42（1967）年3月、日本初のコンテナターミナルを有する摩耶埠頭が竣工し、同年9月19日にコンテナ第1船（ハワイアン・プランター号）が摩耶埠頭に入港しました。
- ▶ 昭和56（1981）年3月にポートアイランドが、平成4（1992）年9月に六甲アイランドが、それぞれ竣工しました。

平成から令和へ

- ▶ 平成7（1995）年1月17日、阪神・淡路大震災により二代目本関庁舎が被災しました。（写真④）
- ▶ 平成11（1999）年3月、三代目本関庁舎が竣工しました。（写真⑥）
- ▶ 平成19（2007）年、神戸港、尼崎西宮芦屋港及び大阪港が同一開港化され、「阪神港」となりました。
- ▶ 平成29（2017）年1月1日、神戸開港から150年目を迎えました。（写真⑨、⑩）
- ▶ 令和4（2022）年11月28日、税関発足から150周年を迎えました。

—「神戸税関庁舎」について

現在の神戸税関庁舎は、三代目庁舎となります。みなと神戸のランドマークとして長年親まれてきた先代の庁舎は阪神・淡路大震災の影響を受けましたが、市民からの「時計塔のある外観を残してほしい」との強い要望を踏まえて、同庁舎を保全しつつ、船をイメージした神戸港の新しい復興のシンボルとして三代目庁舎は生まれ変わりました。同庁舎は、近代化産業遺産の認定などを受賞したほか、映画「スパイの妻」や連続テレビ小説「まんぷく」など数多くの作品のロケ地としても活用されています。（写真④、⑥、⑪）

神戸税関管轄



神戸税関の管轄

神戸税関の管轄区域は、兵庫県、中国地方（山口県を除く）4県、四国4県の計9県の広範囲に及び、全国の税関の中で最も長い海岸線（約7,100km）を有しています。

管内には28の開港と5つの税関空港があり、本関のほかには15支署、13出張所及び2監視署が置かれ、約1,000名の職員が輸出入貨物の通関や密輸の取締り等に当たっています。（写真⑤）

（令和4（2022）年12月現在）